

音響測量機器による新たな藻場識別マッピング手法の提案

水産技術研究所伊豆分場

(要旨)

東京大学生産技術研究所、(株)ウィンディーネットワーク、静岡県が共同研究を行い、音響測量機器を用いた船上からの調査によりカジメ、アマモを識別し、定量的にマッピングが可能となる新たな手法が提案された。

(概要)

(1) 方法

平成 25 年 7 月 1 日に下田市外浦湾（水深 2～8m）で、(株)ウィンディーネットワークが所有する海底地形の把握に有効な測量機器“ジオスワスプラスコンパクト”を用いて船上から調査した。また、8 月 1 日に水産技術研究所伊豆分場が同海域で潜水調査を行い海藻の植生を把握した。得られたデータは東京大学生産技術研究所が解析し、底質や海藻の識別などを行った。

(2) 結果

岩場に生育するカジメや砂地に生育するアマモが識別され、調査海域において定量的に、かつ、良い精度でマッピングすることが可能となった。

(3) 今後の予定など

潜水調査と音響測量機器によるデータの収集・解析により、藻場の分布をより正確に把握する手法が提案されたことから、来年度は、テングサなどの識別を可能にすることや外浦湾以外の海域での実施により伊豆沿岸の藻場の分布量の把握などを目指す研究を共同で実施していく予定である。



写真 音響測量機器と測量風景

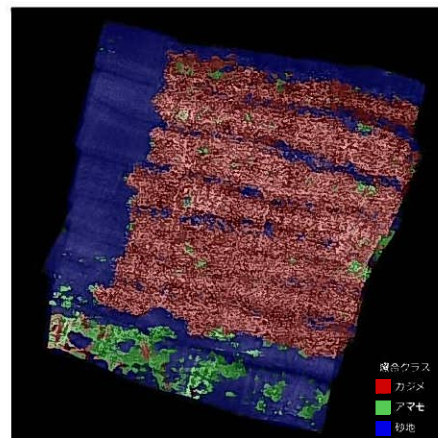


図 音響画像

担当：水産技術研究所伊豆分場（山田）

連絡先：0558-22-0835